

## 今年、灯台150周年です

現在、全国にある灯台の始まりは、明治の初めに導入された洋式灯台にさかのぼります。

江戸末期、英・米・仏・蘭の4か国が、関門海峡を舞台に長州藩と戦った下関戦争の賠償の一環として、開港した各港への灯台の設置を約束させ、1番目に建設された灯台が、神奈川県横須賀市にある観音埼灯台です。

明治元年11月1日に、この観音埼灯台の建設を着手しており、この年を基点として、平成30年は、灯台の近代化150周年にあたります。

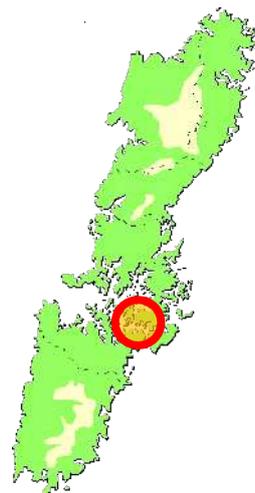
### 対馬の主な灯台

灯台150周年にあたり、対馬に設置されている主な灯台を毎月順番にご紹介します。

#### その8 万関瀬戸東口灯台 万関瀬戸西口灯台

万関瀬戸東口灯台及び万関瀬戸西口灯台は、万関瀬戸航路<sup>1</sup>の東口及び西口に位置し、三浦湾と浅茅湾を結ぶ万関瀬戸航路の船舶交通の安全を支えるうえで、重要な役割を果たしている灯台です。

万関瀬戸航路（長崎県対馬市美津島町）



1

万関瀬戸航路は、明治33年に旧大日本帝国海軍（竹敷港にあった海軍要港部）によって、大きな艦船を通過させるため開削された航路で、日露戦争の日本海海戦では、ここを通過して出撃しました。昭和49年には、航路の重要性に鑑み開発保全航路（船舶の交通を確保するため、開発保全に関する工事を必要とする航路）として指定されています。

## 万関瀬戸東口灯台



三浦湾側から万関東口望む



万関瀬戸航路航行中



万関の瀬戸  
東口灯台  
初点  
昭和41年3月



## 万関瀬戸西口灯台



浅茅湾側から万関西口望む



万関の瀬戸  
東口灯台  
初点  
昭和41年3月



「万関瀬戸東口灯台」と「万関瀬戸西口灯台」は、**2基同時に**昭和41年3月初点灯しました。